

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	城西大学
設置者名	学校法人 城西大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
経済学部	経済学科		0	0	14	14	13	
現代政策学部	社会経済システム学科		0	0	14	14	13	
経営学部	マネジメント総合学科		2	0	12	14	13	
理学部	情報数理学科		0	4	10	14	13	
	数学科 (坂戸・東京紀尾井町)		6	0	8	14	13	
	化学・生命科学科		0	0	18	18	13	
薬学部	薬学科		0	2	17	19	19	
	薬科学科		0	0	18	18	13	
	医療栄養学科		0	0	13	13	13	
(備考) ● 専門科目には、専門科目以外の科目群(関連科目)の授業科目も含まれる。 ● 実践的教育から構成される授業科目も含まれる。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ポータルサイト(JUnavi)のトップページに掲載する。 https://junavi.josai.ac.jp/camweb/top.do

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	城西大学
設置者名	学校法人 城西大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 <https://www.josai.jp/about/kiso/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤 羽入 佐和子	帝京大学先端総合研究 機構特任教授	令和7年5月28日定時 評議員会終 結時～令和 11年度定時 評議員会終 結時	学術研究に関する 指導、助言及び管 理、監督
非常勤 リビット 水田 堯	米国 南カリフォルニア 大学映画芸術学部副学 部長	令和7年5月28日定時 評議員会終 結時～令和 11年度定時 評議員会終 結時	学術研究に関する 指導、助言及び管 理、監督
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	城西大学
設置者名	学校法人 城西大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

- | |
|---|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 |
|---|

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

○授業計画書〈シラバス〉の作成過程について

シラバス掲載内容及び作成にあたっての留意は以下のとおり

(1) 科目基本情報

- ① 科目名
- ② 配当年次
- ③ 開講期間
- ④ 単位数
- ⑤ 担当教員名
- ⑥ 期間・曜日・時限・教室

(2) 授業の目的・目標等

- ① 授業の概要
- ② 授業の目的・目標
- ③ 修得できる力
- ④ 授業の到達目標
- ⑤ 実務経験のある教員による授業科目
※実務経験を有する教員の場合は記述する。
- ⑥ 地域に係る授業科目
※地域に係る科目の場合は詳細を記述する。

(3) 準備学習の指示

(4) 講義スケジュール

(5) 教科書

(6) 参考文献

(7) 授業の方法

(8) 成績評価方法

※到達目標の達成度を測定できる方法と基準を記述してください。

- ・評価方法
- ・評価割合
- ・評価基準
- ・フィードバック方法 など

(9) オフィスアワー、居室、ホームページ

(10) その他特記事項

なお、シラバス作成にあたり、3つのポリシー及び当該学部・学科のカリキュラムポリシーに準じて記述するよう留意し作成している（結果として大学の教育の質の保証に繋がることを意識し作成にあたる）。

○授業計画の作成・公表時期

例年、前年度の10月中旬頃に各教員が担当する授業担当科目が決定する。

それに伴い、12月初旬ごろからそれぞれの教員がシラバスの作成を行い、学部内のチェックを経て新年度までに完成させる。

公表方法及び公表時期については、前年度の3月中旬ごろから大学のポータルサイト(JUnavi)で閲覧できるようになっている。

授業計画書の公表方法	ポータルサイト(JUnavi)のトップページから授業計画(シラバス)の閲覧が可能となっている。 https://junavi.josai.ac.jp/camweb/top.do
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

それぞれの学部、学科にて学年毎に履修すべき科目や選択科目を設置している。

授業は原則として、春学期・秋学期それぞれ105分授業を基本（実験・実習は除く）とし、13週の授業で構成している。さらに半年毎の履修上限を設定することで、学生の各授業科目の学習時間の確保を行い、単位制度の実質化につなげている。

履修した授業科目に対しては、あらかじめシラバスで記してある成績評価方法（試験やその他の評価方法〈課題・レポート等〉）により評価をしている。なお、いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失うこととしている。

○単位授与及び成績評価基準について

学生が履修した授業科目に対して、試験その他の方法（レポート等）により学習評価をしたうえで、その単位を認定する。各授業科目の成績は、学修成果の達成度に応じて、S、A、B、C、Fの評価で表し、S、A、B、Cを合格とし、Fを不合格とする。ただし、可否のみを判定する科目については、Pを合格とし、Qを不合格とする。評価の基準については、次のとおりとなっている。

成績評価 (表示)	成績評価基準		合否
S	特に優れた学修成果を達成できている	100～90点	合格
A	期待される学修成果を達成できている	89～80点	
B	期待される学修成果を概ね達成できている	79～70点	
C	期待される学修成果を最低限達成できている	69～60点	
F	期待される学修成果を達成できていない	59点以下	不合格
P	可否のみで判定する科目で、期待される学修成果を達成できている		合格
Q	可否のみで判定する科目で、期待される学修成果を達成できていない		不合格

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価方法及び評価基準については大学設置基準に基づいて、学則第42条ならびにシラバスに記載されている。本学では、GPA制度を導入しており、学生は自らの学習成果の推移を知り、学修の自己管理ができるようになっている。GPAの結果は、学科毎に通知する成績表や成績証明書に記載している。

学生便覧に示されている成績評価の基準は、100点満点で、100～90点が「S」評価、89～80点が「A」評価、79～70点が「B」評価、69～60点が「C」評価で、以上が合格とし、59点以下が「F」評価の不合格となる。それぞれのGPAのポイントは、4, 3, 2, 1, 0となっている。なお、「P」および「Q」評価は、可否のみで判定する科目のため、GP基準の対象外となっている。

単位については、大学設置基準に基づき学則第41条で定められている。

(GPの基準)

成績評価 (表示)	評価の基準		可否	GP
S	特に優れた学修成果を達成できている	100～90点	合格	4
A	期待される学修成果を達成できている	89～80点	合格	3
B	期待される学修成果を概ね達成できている	79～70点	合格	2
C	期待される学修成果を最低限達成できている	69～60点	合格	1
F	期待される学修成果を達成できていない	59点以下	不合格	0
T	正当な理由により、定期試験の受験等ができなかったため、学修成果の判定ができない	追試験受験可能	未受験 (不合格)	0
Z	学則に定める授業出席時数を満たしていないため、学修成果の判定をしない	失格	不合格	0

〈GP×当該科目の単位数〉の合計

GPA = $\frac{\text{〈GP} \times \text{当該科目の単位数〉の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計 (T評価、F評価、Z評価を含む)}}$

※不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA計算式に算入されない。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

(成績評価基準)

学生便覧の「履修の手引と手続」に掲載している。

【学生便覧入手方法】

城西大学ホームページにて入手可能

https://www.josai.ac.jp/for_students/handbook-for-students/2025_binran/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

○経済学部

経済学部経済学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、地域や国際社会の発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を評価軸として学位授与方針に従って卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す心構えを有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 経済学に関する基礎ならびに本学科で設置している「経済・金融コース」「産業・グローバルコース」「データサイエンスコース」のいずれかの分野における応用力を身につけ、あわせて教養を高めることを通じて、人間形成の基礎を培い、自らを成長させようとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

経済学部

全学共通基盤科目	3単位
基本科目	20単位
専門科目〔第一分野〕	52単位
関連科目〔第二分野〕	49単位
計	124単位

○現代政策学部

現代政策学部社会経済システム学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、多様な文化を認め合う社会の実現に向けて貢献できる人物を育成します。本学部学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点での評価と、以下の知識や技能を身につけたかという視点での審査により、学士の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、国際社会や地域社会の一員としての倫理観・責任感を身につけ、常に社会の課題とニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを身につけている。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていく“協創”を通して、社会や文化の発展のために課題の発見と解決を目指す志を有している。また、異文化を理解しコミュニケーションを取れる語学力の基礎を有している。
3. 自らの人間形成の基礎と、将来にわたり自らを成長させようとする心構えを培うために、政策学を中軸として複数の主要分野（政治、法律、経済、文化、地域、国際、福祉、情報）を横断的に履修して専門知識や技能を修得し、併せて幅広い教養や思考力・判断力を身につけている。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

現代政策学部

全学共通基盤科目	3単位	
基本科目 (演習科目)	16単位	
基本科目 (語学科目)	4単位	
基本科目 (政策系科目)	4単位	
基本科目 (キャリア科目)	2単位	
専門科目	52単位	分野領域主要科目を 8単位以上 (選択必修)
関連科目	43単位	導入基礎科目を 6単位以上 (選択必修)
計	124単位	

○経営学部

経営学部マネジメント総合学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、アントレプレナーシップ（企業家精神）を有し、経営学固有の視点から地域や国際社会の発展に貢献できる人物を育成します。本学で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の 資質・能力を身につけたかという視点で評価し、各学部・学科の学位授与方針に従って卒業 を認定し、学士の学位を授与します。 ※各学科の作成については、AP の下をご確認ください。

1. 学問における学びを通じて、思考力・判断力を高めるとともに、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 「経営管理論」「会計学」「商学」「経営工学」「経営情報学」に関する基礎を身につけ、それらを統合する組織運営に関する学びと、教養を高めることを通じて、自らの人間形成の基礎を培い、将来にわたり自らを成長させようとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

経営学部

全学共通基盤科目	3単位
基本科目	28単位
専門科目	65単位
〔入門分野〕	〔3単位〕
〔共通基礎分野〕	〔12単位〕
〔共通基幹分野〕	〔14単位〕
〔共通展開分野〕	〔10単位〕
〔共通キャリア分野〕	〔2単位〕
〔コース基礎分野〕	〔2単位〕

〔コース基幹分野〕	〔12単位〕
〔コース展開分野〕	〔8単位〕
〔コース実践分野〕	〔2単位〕
関連科目	24単位
横断科目	4単位
計	124単位

○理学部

城西大学理学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、理学の本質を論理的・実証的に解析、考察する能力を持ち、地域社会や国際社会の持続的な発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、各学科の学位授与方針に従って卒業認定を行い、学士の学位を授与します。

学修目標

1. 学問における学びにおいて、高い思考力・判断力を形成するとともに、倫理観と責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 理学部での数学や化学の学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 理学部での数学や化学の学びを通して、実社会における自然科学や科学技術の発展に、主体的かつ協働的に貢献するための数学や化学の知識・技能の基礎を有している。

【理学部 情報数理学科】

城西大学理学部情報数理学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、数学・統計学・情報科学の知見によって地域や国際社会の課題を解決し、その発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、審査を行って学士の学位を授与します。

1. 学問における学びの中で、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、論理的思考力・数理的判断力を高めるとともに、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて必須である基本的な英語力を有している。
3. 自身の専門に関する学びを通して、情報数理の知識と技能を修得し、現代社会の多様な問題の解決に貢献する意欲と能力を身につけて、将来にわたり自らの専門性を高めていこうとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

理学部 情報数理学科

全学共通基盤科目	3 単位
基本科目	8 単位
専門科目	9 5 単位
関連科目	1 8 単位
計	1 2 4 単位

【理学部 数学科】

城西大学理学部数学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、現実の諸問題を数理的に理解・解決し、地域や国際社会の発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で審査を行い、学士の学位を授与します。

(個人の学問に取り組む態度の評価)

1. 学問における学びの中で、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、論理的思考力・数理的判断力を高めるとともに、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。

(学問に協力して取り組む態度の評価)

2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、数理的な内容を他者にわかりやすく、かつ論理的に説明する能力、及びグローバルコミュニケーションにおいて必須である基本的な英語力を有している。

(専門分野の学習に関する評価)

3. 自身の専門に関する学びを通して、数学の知識と応用及び ICT によって現代社会の多様な問題の解決に貢献する意欲を有し、そのための技術と能力を身につけて、将来にわたり自らの専門性を高めていこうとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

理学部 数学科

全学共通基盤科目	3 単位	} 外に、7 単位
基本科目	8 単位	
専門科目	8 8 単位	
関連科目	1 8 単位	
計	1 2 4 単位	

【理学部 化学・生命科学科】

城西大学理学部化学・生命科学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、化学や生命科学を通じて地域社会や国際社会の持続的な発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、理学部化学・生命科学科の学位授与方針に従って卒業認定を行い、学士の学位を授与します。

学修目標

1. 化学や生命科学を学ぶ中で形成された思考力・判断力を高めるとともに、倫理観と責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。

2. 大学での化学や生命科学の学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する 様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 化学や生命科学の専門に関する学びを通して、実社会における他の自然科学や科学技術の発展に、主体的かつ協働的に貢献するための化学の知識・技能の基礎を有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

理学部 化学・生命科学科

全学共通基盤科目 3 単位

基本科目 8 単位

専門科目 9 8 単位

関連科目 1 5 単位

計 1 2 4 単位

○薬学部

城西大学薬学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、人々の健康な生活を護り、地域や社会の発展に薬学分野の専門家として貢献できる人物を育成します。本学部で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価を行い、学士の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 薬学に関する学びにより、社会のニーズに対応した健康や医療に関する幅広い知識と技能を身につけるとともに、思考力・判断力を高め、将来にわたり薬学分野の専門家として自らを成長させようとする心構えを有している。

【薬学部 薬学科】

城西大学薬学部薬学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、薬に関わる専門家としての視点から医療の発展に薬剤師として貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価を行い、学士（薬学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、医療人としてのあるべき姿を模索しつつ、医療の発展に貢献しようとする心構えを身につけている。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、薬に関わる専門家として人々の生活に積極的に関わることで、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”を実践し、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。

3. 健康や医療に関する幅広い知識と技能といった薬剤師としての基本的資質に直結する能力とともに、医療栄養、高度地域医療、法医学、もしくは最先端医療に関する高い専門性を獲得し、またそれらの学びを通じて思考力・判断力を高め、将来にわたり自らの専門性を高めようとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

薬学部 薬学科

全学共通基盤科目 3単位

基本科目 6単位

専門科目 168単位

関連科目 9単位

計 186単位

【薬学部 薬科学科】

城西大学薬学部薬科学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、人々の健康な生活を護り、地域や国内、国際社会の発展に薬科学の専門家として貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価を行い、学士（薬科学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、薬科学の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 薬科学に関する学びにより、医薬品、食品、化粧品、化成品の有効性・安全性に関する専門知識とそれらを取り扱うための技能、ならびにそれらの研究・開発に携わることで高い思考力・判断力を獲得し、それらを人々の健康な生活に活かす能力を身につけているとともに、将来にわたり医薬品、食品、化粧品、化成品の学際的領域の専門家として自らを成長させようとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

薬学部 薬科学科

全学共通基盤科目 3単位

基本科目 6単位

専門科目 109単位

関連科目 6単位

計 124単位

【薬学部 医療栄養学科】

城西大学薬学部医療栄養学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、人々の健康な生活を護り、栄養学や医療の発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかと

いう視点で評価を行い、学士（医療栄養学）の学位を授与します。

1. 学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。
2. 大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。
3. 社会のニーズに対応した健康や医療に関する幅広い知識と技能といった管理栄養士としての基本的資質に直結する能力とともに、地域医療、臨床栄養、予防医学、もしくは最先端医療に関する高い専門性を獲得し、ならびに、その学びを通じて思考力・判断力を高め、将来にわたり医療栄養学の専門家として自らを成長させようとする心構えを有している。

-卒業要件-

(学則第43条)

卒業するために、必要とされる最低単位数は、次のとおりとする。

薬学部 医療栄養学科

全学共通基盤科目	3 単位
基本科目	5 単位
専門科目	116 単位
関連科目	6 単位
計	130 単位

【卒業判定の手順】

最終学年（4年生〈薬学科は6年生〉）の成績評価表を基に、各学部にて定められた卒業要件にそって、科目の成績評価が適切に行われているか確認を行った上で、卒業可否を決定する。各学部において定められた、分野ごとの科目評価を確認する。なお、学生に対する卒業可否についての発表は「卒業発表日」（年間行事予定表に掲載）に行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページにて公表

<https://www.josai.ac.jp/about/operation/policy/>

なお、卒業に必要な科目及び単位数については、『学生便覧』の「履修の手引と手続」「城西大学学則」に掲載している。

【学生便覧入手方法】

城西大学ホームページにて入手可能

https://www.josai.ac.jp/for_students/handbook-for-students/2025_binran/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	城西大学
設置者名	学校法人 城西大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/kessan_2024.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/kessan_2024.pdf
財産目録	https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/zaisan_2024.pdf
事業報告書	https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/jigyoku_2024.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.josai.jp/about/kiso/pdf/kansa_2024.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 学校法人城西大学 2025 度事業計画対象年度: 2025 年度)
公表方法: ホームページ https://www.josai.jp/about/plan/project/pdf/jigyokeikaku_2025.pdf
中長期計画(名称: 学校法人城西大学中期計画対象年度: 2025~2029 年度)
公表方法: ホームページ https://www.josai.jp/about/plan/midl_plan/pdf/chukikeikaku02.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ https://www.josai.ac.jp/about/efforts/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページ https://www.josai.ac.jp/about/efforts/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

経済学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/2_keizai_rinen_mokuteki_2025.pdf （概要）城西大学経済学部は、常に新しい時代を視野に入れ、学際的な研究・教育を実践します。さまざまな個性、文化的背景を持つ学生が、学問を通して、論理的・多面的に考え、自ら問題解決する力を養い、それぞれの個性を伸ばし、地域や国際社会でそれらを生かしたキャリアを形成していくことができるよう教育を行います。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/01_keizai_policy_2025.pdf （概要）経済学部経済学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、地域や国際社会の発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、経済学部経済学科の学位授与方針に従って卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与します。 1.学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。 2.大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する「協創」によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。 3.経済学に関する基礎ならびに経済学部経済学科でコースとして設定している「経済・金融コース」「産業・グローバルコース」「データサイエンスコース」のいずれかの分野における応用力を身につけ、併せて教養を高めることを通じて、自らの人間形成の基礎を培い、将来にわたり自らを成長させようとする心構えを有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/01_keizai_policy_2025.pdf （概要）経済学部経済学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマ・ポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。 1.人間形成の過程で必要となる学びを提供するために、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、人類文化社会へ貢献するための意識を養うという視点で、全学部共通科目を含む必修科目を学生の段階的な成長を促すように各学年に設定する。その評価は自己評価を基本とし、長期型ルーブリック*を用いた評価をポートフォリオ*に蓄積して学生自身による振り返りを促すとともに、教員による学びの促進を意図した形成的評価を随時実施する。*長期型ルーブリック：ルーブリックは、学習目標の達成段階を質として表した表で、長期型ルーブリックは、入学から卒業までの成長を継続的に評価するのに有効なツールです。*ポートフォリオ：学習成果物を時系列に沿って蓄積していったファイルで、学生の段階的な成長を確認するために有効なツールです。 2.“協創”による社会問題の解決に取り組むために、全学部の学生が協力して課題解決を創造する「学内外連携授業」を必修科目として各学年に設定する。その評価には、教員による評価だけでなく、ルーブリックを用いた自己評価・ピア評価など多様な視点を取り入れ、

学習の成果物はポートフォリオに蓄積して、自身の振り返りを促す。英語力については、大学共通基本科目において習熟度別のクラス編成を実施して、個人のレベルに合った学習を可能にする。

3.経済学部経済学科において求める専門性と教養を獲得するという視点でカリキュラムを策定し、人間形成につながる学問の基礎を培う。そのために、経済学部経済学科では、学習の多様性は保証しつつ、学生が学習目標を設定しやすく、卒業時における自身の専門性が明確化できるようにコース制を導入し、それぞれのコースに応じた選択必修科目を設定している。これらの評価には、学生の学習活動の改善を目的とした形成的評価を適宜行い、期末に記述式試験を実施するだけでなく、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。その成果については GPA を用いて学生に対してフィードバックを行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.josai.ac.jp/media/01_keizai_policy_2025.pdf

（概要）経済学部経済学科では、自身の発見や自身を大きく成長させるために必要な学びを提供し、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、社会貢献への意識を養う教育を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

1.多様な事象に興味を持ち、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって学ぶ意思を有する人

2.他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組む意思を有する人

3.自らが学ぼうとする経済学部経済学科における専門的な学びを修め、教養を高める意欲があり、そのために必要な経済学部経済学科で指定する教科（英語、国語、社会科、数学）の学習に取り組んでいる人

経済学部経済学科のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な形態の入学試験によって、学力の三要素、すなわち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」などの資質・能力を評価し、経済学部経済学科の教育目的に相応しい人材を選抜します。

現代政策学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

https://www.josai.ac.jp/media/3_genndai_rinen_mokuteki_2025.pdf

（概要）現代政策学部は、政策学を中核とする学びとリベラルアーツ科目の学びにより、地域社会とグローバル社会の課題発見・解決のための知識とスキルを活用できる人材、生涯にわたり自律的に学び続けることができる人材、および高い倫理観を持ち社会貢献できる人材を育成すること、並びに幅広い学問分野において新しい価値を創造してその研究成果を教育や社会で実践することを教育研究上の目的とします。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.josai.ac.jp/media/02_genndai_policy_2025.pdf

(概要) 現代政策学部社会経済システム学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、多様な文化を認め合う社会の実現に向けて貢献できる人物を育成します。本学部学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点での評価と、以下の知識や技能を身につけたかという視点での審査により、学士の学位を授与します。 1.学問における学びを通じて、教養を高め、国際社会や地域社会の一員としての倫理観・責任感を身につけ、常に社会の課題とニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを身につけている。 2.大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていく“協創”を通して、社会や文化の発展のために課題の発見と解決を目指す志を有している。また、異文化を理解しコミュニケーションを取れる語学力の基礎を有している。 3.自らの人間形成の基礎と、将来にわたり自らを成長させようとする心構えを培うために、政策学を中軸として複数の主要分野(政治、法律、経済、文化、地域、国際、福祉、情報)を横断的に履修して専門知識や技能を修得し、併せて幅広い教養や思考力・判断力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページ) https://www.josai.ac.jp/media/02_genndai_policy_2025.pdf
(概要) 現代政策学部社会経済システム学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマ・ポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。 1.人間形成の過程で必要となる学びを提供するために、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する自立的な姿勢と倫理観、人類文化社会へ貢献するための意識を養うという視点で本学部学科のカリキュラムを策定し、そのために必要な全学部共通科目を含む必修科目・演習科目・キャリア系科目を学生の段階的な成長を促すように設定する。その評価は、論述考査等による審査のほか、長期型ルーブリックを用いた学生自身による自己評価と振り返りを基本として、総括的に行う。 2.“協創”による社会問題の解決に取り組むための課題解決型授業、学内外連携授業等の科目を、全学共通科目を含めて設定し、系統的にカリキュラムに組み込む。その評価には、論述考査等による審査のほか、ルーブリックを用いた自己評価・ピア評価を含めた多様な視点を取り入れ、学習の成果物はポートフォリオに蓄積して、自身の振り返りを促す。語学力については、大学共通基本科目を含む外国語・日本語の必修科目において、個人のレベルに合った学習を可能にする。 3.現代政策学部社会経済システム学科において求める専門知識や技能の修得、および幅広い分野に関する教養を身につけるという視点でカリキュラムを策定し、政策学と学生自身が設定した政策分野に通じた人間を育成する。政策学については必修科目を設定し、政策学に関連する科目については、学生が自ら自身の学びを選択できるよう、複数の主要分野(政治、法律、経済、文化、地域、国際、福祉、情報)を選択必修科目として設定する。加えて「公共政策」「地域創生」「多文化社会」の3コースを設定し、学生の目標に沿った順次性のある体系的な学びを実現する。各科目の評価には形成的評価を取り入れ、論述考査等による審査のほか、各科目の特性に合わせて総括的評価を実施し、その成果については GPA 等を用いて学生に対してフィードバックを行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: ホームページ) https://www.josai.ac.jp/media/02_genndai_policy_2025.pdf
(概要) 現代政策学部社会経済システム学科では、自身の発見や自身を大きく成長させるために必要な学びを提供し、社会を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、社会貢献への意識を養う教育を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。 1.多様な事象に興味を持ち、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって学ぶ意思を有

する人 2.他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組む意思を有する人 3.現代政策学部社会経済システム学科における専門知識や技能を修得し、幅広い分野に関する教養を身につける意欲があり、そのために必要な本学部学科で指定する教科の学習に取り組んでいる人 現代政策学部社会経済システム学科のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な形態の入学試験によって、学力の三要素、すなわち「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」等の資質・能力を評価し、本学部学科の教育目的に相応しい人材を選抜します。
--

経営学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/4_keiei_rinen_mokuteki_2025.pdf （概要）経営学部は、営利組織だけでなく非営利組織も含めた社会におけるすべての組織に適合するマネジメントを学際的に研究し教育することにより、グローバルな視点とローカルな視点を持ち、新しい社会と産業を創造するプロフェッショナルの育成を目指します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/03_keiei_policy_2025.pdf （概要）経営学部マネジメント総合学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、アントレプレナーシップ（企業家精神）を有し、経営学固有の視点から地域や国際社会の発展に貢献できる人物を育成します。本学で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、各学部・学科の学位授与方針に従って卒業を認定し、学士の学位を授与します。※各学科の作成については、APの下をご確認ください。 1.学問における学びを通じて、思考力・判断力を高めるとともに、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。 2.大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。 3.「経営管理論」「会計学」「商学」「経営工学」「経営情報学」に関する基礎を身につけ、それらを統合する組織運営に関する学びと、教養を高めることを通じて、自らの人間形成の基礎を培い、将来にわたり自らを成長させようとする心構えを有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/03_keiei_policy_2025.pdf （概要）経営学部マネジメント総合学科は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマ・ポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。 1.人間形成の過程で必要となる学びを提供するために、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、人類文化社会へ貢献するための意識を養うという視点で全学共通カリキュラムを策定し、そのために必要な全学部共通科目を含む必修科目を学生の段階的な成長を促すように設定する。その評価は自己評価を基本とし、長期型ルーブリック*を用いた評価をポートフォリオ*に蓄積して学生自身による振り返りを促すとともに、教員による学びの促進を意図した形成的評価を随時実施する。*長期型ルーブリック：ルー

ブリックは、学習目標の達成段階を質として表した表で、長期型ルーブリックは、入学から卒業までの成長を継続的に評価するのに有効なツールです。

2. “協創”による社会問題の解決に取り組むための、「課題解決型授業」、「学内外連携授業」などを必修科目として設定し、系統的にカリキュラムに組み込む。その評価にはルーブリックを用いた自己評価・ピア評価を含めた多様な視点を取り入れ、学習の成果物はポートフォリオ*に蓄積して、自身の振り返りを促す。英語力については、大学共通基本科目である「コミュニケーション基礎英語」において、習熟度別のクラス編成を実施して、個人のレベルに合った学習を可能にする。*ポートフォリオ：学習成果物を時系列に沿って蓄積していったファイルで、学生の段階的な成長を確認するために有効なツールです。

3. 経営学部マネジメント総合学科において求める専門性（経営管理論、会計学、商学、経営工学、経営情報学）と教養を獲得するという視点でカリキュラムを策定し、人間形成につながる学問の基礎を培う。更に「企業ビジネスマネジメント」「地域コミュニティマネジメント」「健康スポーツマネジメント」の3コースを設定し、学生の学修目標に沿った順次性のある体系的な学びを実現する。各科目の評価には、期末に記述式試験を実施するだけで合否判定するのではなく、各科目の特性に合わせて、合否の判定を伴う総括的評価を実施する。その成果についてはGPAを用いて学生に対してフィードバックを行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.josai.ac.jp/media/03_keiei_policy_2025.pdf

（概要）経営学部マネジメント総合学科では、自身の発見や自身を大きく成長させるために必要な学びを提供し、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、社会貢献への意識を養う教育を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

1. 多様な事象に興味を持ち、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって学ぶ意思を有する人
2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組む意思を有する人
3. 自らが学ぼうとする経営学部マネジメント総合学科における専門的な学びを修め、教養を高める意欲があり、そのために必要な英語、国語、数学、社会科の学習に取り組んでいる人

上記の経営学部マネジメント総合学科のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な形態の入学試験によって、学力の三要素、すなわち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」などの資質・能力を評価し、経営学部マネジメント総合学科の教育目的に相応しい人材を選抜します。

理学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

https://www.josai.ac.jp/media/5_rigaku_rinen_mokuteki_2025.pdf

（概要）理学部は、理学の本質を論理的・実証的に解析・考察する能力をもち、複雑な社会情勢に適用できる人材の育成を目指して教育研究を行う。

1. 情報数理学科は、数学・統計学・情報科学の基礎を身につけ、データサイエンスの知識によって地域や国際社会における課題を解決できる人材の育成を目指して教育研究を行う。
2. 数学科は、綿密な論理構成と数学的な思考法を社会に応用できる人材の育成を目指して教育研究を行う。
3. 化学・生命科学科は、科学的思考力と実験技術を併せもち、社会に貢献できる人材の育成を目指して教育研究を行う。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/04_rigaku_policy_2025.pdf
（概要）城西大学理学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、理学の本質を論理的・実証的に解析、考察する能力を持ち、地域社会や国際社会の持続的な発展に貢献できる人物を育成します。本学科で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、各学科の学位授与方針に従って卒業認定を行い、学士の学位を授与します。学修目標 1.学問における学びにおいて、高い思考力・判断力を形成するとともに、倫理観と責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。 2.理学部での数学や化学の学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。 3.理学部での数学や化学の学びを通して、実社会における自然科学や科学技術の発展に、主体的かつ協働的に貢献するための数学や化学の知識・技能の基礎を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/04_rigaku_policy_2025.pdf
（概要）城西大学理学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマ・ポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。 1.人間形成の過程で必要となる学びを提供するために、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、人類文化社会へ貢献するための意識を養うという視点で全学共通カリキュラムを策定し、そのために必要な全学部共通科目を含む必修科目を学生の段階的な成長を促すように設定する。その評価は自己評価を基本とし、長期型ルーブリック*を用いた評価をポートフォリオ*に蓄積して学生自身による振り返りを促すとともに、教員による学びの促進を意図した形式的評価を随時実施する。*長期型ルーブリック：ルーブリックは、学習目標の達成段階を質として表した表で、長期型ルーブリックは、入学から卒業までの成長を継続的に評価するのに有効なツールです。*ポートフォリオ：学習成果物を時系列に沿って蓄積していったファイルで、学生の段階的な成長を確認するために有効なツールです。 2.“協創”による社会問題の解決に取り組むために、全学部の学生が協力して課題解決を創造する「学内外連携授業」を必修科目として各学年に設定する。その評価には、教員による評価だけでなく、ルーブリックを用いた自己評価・ピア評価など多様な視点を取り入れ、学習の成果物はポートフォリオに蓄積して、自身の振り返りを促す。英語力については、大学共通基本科目である「コミュニケーション基礎英語」において、習熟度別のクラス編成を実施して、個人のレベルに合った学習を可能にする。 3.理学の柱となる数学科と化学科において、綿密な論理構成と数学的な思考法、または化学的思考能力と実験技術を併せ持ち、複雑な実社会に対応できる科学的な思考力を獲得するという視点でカリキュラムを策定する。その評価方法には、学生の学習活動の改善を目的とした形成的評価を取り入れ、学期末に記述式試験を実施するだけで合否判定をするのではなく、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、合否判定を伴う総括的评价を実施する。その成果については GPA を用いて学生に対してフィードバックを行う。具体的には、各学科で設定した「必修の専門科目」において、各学科で求める専門的な知識・技能の基礎を身につける。そして、それらを地域社会や国際社会において役立てることができるよう、「数学セミナー」や「卒業研究」、「化学ゼミナール・コロキウム」を最先端の知識・技術の学びの場として設定する。この他に、情報関連科目を含む「選択の専門科目」を設定し、これらの科目を組み合わせることで学ぶことにより、より深く、また幅の広い専門性を培う。

また、理学部での学びで得た知識・技能を他者への教育という観点から地域社会等へ貢献することを希望する者のために、教員養成を目的とした教育の基礎的理解に関する科目と教科及び教育の指導法に関する科目を設定する。その評価は教員養成に重要なアクティブラーニングを取り入れた形成的評価によって行う。さらに、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、合否判定を伴う総括的評価を実施する。また、「履修カルテ」において自己評価を行い、ポートフォリオとして活用する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/04_rigaku_policy_2025.pdf
（概要）城西大学理学部は、自身の発見や自身を大きく成長させるために必要な学びを提供し、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探究する姿勢、社会貢献への意識を養う教育を行います。そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。 求める人物像 1. 多様な事象に興味を持ち、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって学ぶ意思を有する人 2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組む意思を有する人 3. 理学部の特徴を理解した上で、各学科（情報数理学科、数学科、化学・生命科学科）での関連学問分野に興味があり、専門知識・技能を高める意欲を持ち、そのために必要な基礎学力と専門教育に関する教科・科目の学習に取り組んでいる人 理学部では各学科のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な形態の入学試験によって、学力の三要素、すなわち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」などの資質・能力を評価し、各学科の教育目的に相応しい人材を選抜します。

薬学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/6_yakugaku_rinen_mokuteki_2025.pdf
（概要）薬学部は、主観的 QOL（quality of life：生活と人生の質）に関わる領域を広く研究し、人々が生活と人生の質を高く維持し、健康のより良い状態を目指すことを支援する人材の育成を目指します。 1. 薬学科は、基本的な薬学の知識に加え、教育研究を通して医療人としての専門知識と実践力、さらには倫理性を身につけ、人々の健康増進を積極的に支援する薬剤師の育成を目指します。 2. 薬科学科は、基本的な薬科学の知識に加え、教育研究を通して研究者・技術者としての専門知識と実践力、さらには倫理性を身につけ、社会に貢献できる人材の育成を目指します。 3. 医療栄養学科は、教育研究を通して人々の健康増進を支援する管理栄養士の育成を目指し、さらに医療における栄養学の高度化を目指します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.josai.ac.jp/media/08_yakugakubu_policy_2025.pdf

(概要) 城西大学薬学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、人々の健康な生活を護り、地域や社会の発展に薬学分野の専門家として貢献できる人物を育成します。本学部で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価を行い、学士の学位を授与します。

1.学問における学びを通じて、教養を高め、自らの人間形成の基礎を培い、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズに関心を持ち、人類文化の発展に貢献しようとする心構えを有している。

2.大学での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”によって、社会に存在する様々な問題の解決を目指す志を有している。また、グローバルコミュニケーションにおいて求められる基礎的な英語力を有している。

3.薬学に関する学びにより、社会のニーズに対応した健康や医療に関する幅広い知識と技能を身につけるとともに、思考力・判断力を高め、将来にわたり薬学分野の専門家として自らを成長させようとする心構えを有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.josai.ac.jp/media/08_yakugakubu_policy_2025.pdf

(概要) 城西大学薬学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマ・ポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1.人間形成の過程で必要となる学びを提供するために、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探求する姿勢、人類文化社会へ貢献するための意識を養うという視点で全学共通科目を含む必修科目を学生の段階的な成長を促すように各学年に設定する。その評価は自己評価を基本とし、長期型ルーブリック*を用いた評価をポートフォリオ*に蓄積して学生自身による振り返りを促すとともに、教員による学びの促進を意図した形成的評価を随時実施する。*長期型ルーブリック：ルーブリックは、学習目標の達成段階を質として表した表で、長期型ルーブリックは、入学から卒業までの成長を継続的に評価するのに有効なツールです。*ポートフォリオ：学習成果物を時系列に沿って蓄積していったファイルで、学生の段階的な成長を確認するために有効なツールです。

2.“協創”による社会問題の解決に取り組むために、全学部の学生が協力して課題解決を創造する学内外連携型などの必修科目を各学年に設定する。その評価には、教員による評価だけでなく、ルーブリックを用いた自己評価・ピア評価など多様な視点を取り入れ、学習の成果物はポートフォリオに蓄積して、自身の振り返りを促す。英語力については、大学共通基本科目において習熟度別のクラス編成を実施して、個人のレベルに合った学習を可能にする。

3.薬学分野の専門家として求められる高い専門性を獲得するという視点でカリキュラムを策定する。その評価は形成的評価を取り入れ、各科目の特性に合わせて総括的に実施し、GPAを用いて学生に対してフィードバックを行う。具体的には、初年次教育やキャリア教育科目において、学習方法や学生生活の指導に加えて自立した社会人としての意識づけを行い、さらに各学科で設定した実習を含む「必修の専門科目」において各学科で求める専門的な知識・技能の基礎を身につける。そして、それらの人々の健康な生活を護ることに役立てることができるように、「卒業研究」や医療現場での実習を応用的な学びの場として設定する。この他、「選択の専門科目」を設定し、これらの科目を組み合わせることで学ぶことにより、より深く、また幅の広い専門性を培う。選択科目の評価は、教員による評価だけでなく、ルーブリックを用いた学生自身による自己評価を取り入れることを基本とする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.josai.ac.jp/media/08_yakugakubu_policy_2025.pdf

(概要) 城西大学薬学部では、自身の発見や自身を大きく成長させるために必要な学びを提供し、物事を多角的に捉える力、社会と学問との接点を探求する姿勢、人類文化社会へ貢献するための意識を養う教育を行います。そのために以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

求める人物像

1. 多様な事象に興味を持ち、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって学ぶ意思を有する人
2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組む意思を有する人
3. 薬学部における専門的な学びを修め、教養を高める意欲があり、そのために必要な各学科で指定する科目の学習に取り組んでいる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ

<https://www.josai.ac.jp/about/operation/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	5 人	－					5 人
経済学部	－	13 人	5 人	人	3 人	人	21 人
現代政策学部	－	8 人	9 人	人	2 人	人	19 人
経営学部	－	14 人	14 人	人	9 人	人	37 人
理学部	－	24 人	10 人	人	5 人	人	39 人
薬学部（6 年制）	－	21 人	11 人	人	18 人	3 人	53 人
薬学部（4 年制）	－	16 人	10 人	人	7 人	5 人	38 人
その他	－	人	3 人	人	人	人	3 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		181 人					182 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://researcher.josai.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済学部	300 人	328 人	109.3%	1200 人	1214 人	101.2%	欠員の範囲	1 人
現代政策学部	250 人	219 人	87.6%	1000 人	874 人	87.4%	欠員の範囲	4 人
経営学部	500 人	498 人	99.6%	2000 人	2035 人	101.8%	欠員の範囲	6 人
理学部	210 人	200 人	95.2%	840 人	783 人	93.2%	欠員の範囲	0 人
薬学部(4 年生)	150 人	106 人	70.7%	600 人	483 人	80.5%	欠員の範囲	0 人
薬学部(6 年生)	250 人	120 人	48%	1500 人	1076 人	71.7%	欠員の範囲	0 人
合計	1660 人	1471 人	88.6%	7140 人	6465 人	90.5%	欠員の範囲	11 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済	281 人	3 人	253 人	25 人

	(100%)	(1.1%)	(90.0%)	(8.9%)
現代政策	204 人 (100%)	8 人 (3.9%)	181 人 (88.7%)	15 人 (7.4%)
経営	444 人 (100%)	5 人 (1.1%)	404 人 (91.0%)	35 人 (7.9%)
理	196 人 (100%)	21 人 (10.7%)	162 人 (82.7%)	13 人 (6.6%)
薬	268 人 (100%)	31 人 (11.6%)	213 人 (79.5%)	24 人 (8.9%)
合計	1393 人 (100%)	68 人 (4.9%)	1213 人 (87.1%)	112 人 (8.0%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (進学先) 【現代政策学部】 ブダペスト・メトロポリタン大学／明治大学大学院／横浜市立大学大学院／メルボルン大学院／城西大学大学院 【経営学部】 順天堂大学大学院／早稲田大学大学院 【理学部】 城西大学大学院／東京科学大学大学院／埼玉大学大学院／上越教育大学専門職学位課程(教職大学院)／富山大学大学院／東北大学大学院／玉川大学大学院／東京都立大学大学院 【薬学部】 東京理科大学大学院／新潟大学大学院／城西大学大学院 (就職先) 【経済学部】 ㈱武蔵野銀行／埼玉縣信用金庫／飯能信用金庫／川口信用金庫／いるま野農業協同組合／水戸証券／イオンリテール㈱／㈱カインズ／㈱コメリ／アークランズ㈱／㈱ベルク／㈱富士薬品／ダイキン HVAC ソリューション東京㈱／㈱ユニマツライフ／㈱ニップコーポレーション／ネットヨタ東埼玉㈱／東急リパブル㈱／住友林業ホームサービス㈱／㈱エイブル／新日本建設㈱／ミサワホーム㈱／NTT データソフィア㈱／キーウェアソリューションズ㈱／トーテックアメニティ㈱／㈱CygamesPictures /ブリヂストンフローテック㈱／天昇電気工業㈱／マンパワーグループ㈱／セコム㈱／アパホテル㈱／㈱西武・プリンスホテルズワールドワイド／上尾中央医科グループ／IMS グループ／SONPO ケア㈱／㈱ベネッセスタイルケア／盛岡市／石巻市／栗原市／みどり市／栃木県警察／警視庁／東京地下鉄㈱／㈱JAL グランドサービスなど 【現代政策学部】 世田谷区／朝霞市／東松山市／小川町／千代田町／高崎市／平川市／喜多方市職員／警視庁／埼玉県警察本部／さいたま市消防局／長野県警察／防衛省自衛隊／佐波伊勢崎農業協同組合／さいたま農業協同組合／あさか野農業協同組合／生活協同組合ユニー／栃木県商工会連合会／埼玉県商工会連合会／三菱ケミカル㈱／イトウ製菓㈱／ゴールドウィン／カメイ㈱／㈱W i z／リックス㈱／㈱フロンティア／㈱カインズ／アークランズ㈱／㈱ワールド／㈱デイトナ・インターナショナル／埼玉トヨタ自動車㈱／埼玉トヨペット㈱／埼玉ダイハツ販売㈱／㈱ヤナセオート／K e e p e r 技研㈱／㈱ベルク／㈱ベシア／㈱セブンイレブン・ジャパン／㈱ヤオコー／㈱マミーマート／㈱O l y m p i c／㈱アインホールディングス／㈱サンドラッグ／㈱ビッグカメラ／Zebra Japan㈱／大林ファシリティーズ㈱／㈱日鉄コミュニティ／パナソニック ホームズ㈱／㈱オープンハウス／群馬セキスイハイム㈱／八千代エンジニアリング㈱／東京冷機工業㈱／青木信用金庫／飯能信用金庫／館林信用金庫／DACグループ／N E C ネットエスアイ㈱／ハイマックス㈱／㈱第一情報システムズ／㈱システナ／社会保険診療報酬支払基金／(医)新座志木中央総合病院／上尾中央医科グループ丸木記念福祉メディカルセンター／中高年事業団やまて企業組合／㈱ベネッセスタイルケア／㈱ツクイ／㈱ハイメディック(学)城西大学／(学)埼玉医科大学／ A L S O K グループ／セコム上信越㈱／㈱ビジネスオリコなど 【経営学部】 ㈱群馬銀行／㈱東日本銀行／㈱武蔵野銀行／埼玉縣信用金庫／アイザワ証券㈱／第一生命保険㈱／ほこた農業協同組合／日産自動車㈱／本田技研工業㈱／リンナイ㈱／一正蒲鉾㈱／リコージャパン㈱／ケイオーデンタル／国際紙パルプ商事㈱／㈱千代田組／五十鈴関東㈱／東京ガスエコモ㈱／富士通㈱／㈱大塚商会／㈱NTT データフィナンシャルテクノロジー／中国電力㈱／㈱サイサン／東芝プラントシステム㈱／トヨタホーム㈱／㈱九電工／日本赤十字社埼玉県支部／上尾中央医科グループ／埼玉医科大学病院／㈱アインホールディングス／㈱ベネッセスタイルケア／朝霞市職員／北九州市／警視庁／埼玉県警察				
---	--	--	--	--

本部／東京消防庁／イオンリテール(株)／ルイ・ヴィトンジャパン(株)／(株)AOKI／(株)カインズ／(株)カクヤス／(株)大創産業／(株)第一通信社／(株)カマタマーレ讃岐／野村不動産ライフ&スポーツ(株)／(株)エイチ・アイ・エス／森トラスト・ホテルズ&リゾーツ(株)／(株)叙々苑／(株)ドトールコーヒー／(株)エイジェック／松竹(株)／税理士法人第一経理／日本郵便(株)／日本通運(株)／(株)丸和運輸機関／埼玉県公立学校教員／栃木県公立学校教員／埼玉平成中学・高等学校など

【理学部】

大塚化学(株)／東洋合成工業(株)／(株)高純度化学研究所／亜細亜工業(株)／アヅマ(株)／大陽ステンレスブリ
ング(株)／(株)特殊金属エクセル／ホッカンホールディングス(株)／アドバンテック(株)／富双合成(株)／(株)フジ
キン／日本分光(株)／／フジテック(株)／(株)コスモ計器／スターツ CAM(株)／日本瓦斯(株)／(株)環境科学研究所
／(株)シー・アイ・シー／(株)セキ薬品／(株)コスモス薬品／(株)第四北越銀行／所沢市／鶴ヶ島市／防衛省自
衛官／第一生命テクノクロス(株)／蓼科情報(株)／トーテックアメニティ(株)／インフォテックソリューション
(株)／／(株)スズキ自販西埼玉／(株)クスリのアオキ／(株)武蔵野／三輪精機(株)／日本生命保険相互会社／
(学) 埼玉医科大学／丸和運輸機関(株)／(株)でらゲー／藤田観光(株)／CTC システムマネジメント(株)／TDC フ
ューテック(株)／ソフトウェアサービス(株)／トーテックアメニティ(株)／(株)NSD／(株)マーブル／パーソルク
ロステクノロジー(株)／(株)第一情報コンピュータ／(株)栄光／埼玉県公立中学校／東京都公立中学校／栃木
県公立中学校／栃木県公立高等学校／栃木県公立小学校／群馬県立聾学校／新潟県公立学校／東京都公
立高等学校／神奈川県公立高等学校／神奈川県立公立中学校／埼玉県公立小学校／千葉県公立学校教員
／茨城県立公立中学校／(学) 東京農業大学 東京農業大学第三高等学校／(学) 山口学院 埼玉平成中
学・高等学校／(学) 岩手奨学会岩手中・高等学校／(学) 山村学園山村国際高等学校／(学) 創志学園
クラーク記念国際高等学校／大智学園高等学校／(学) 武陽学園 西武台高等学校／(学) 目黒学院中学
校・高等学校／(学) つくば秀英高等学校／(学) 拓殖大学紅陵高等学校／(学) 三幸学園など

【薬学部】

(株)アールビーエム／メディフォード(株)／日本天然物研究所／(株)遠藤製館／浜理P F S T(株)／(株)富士薬品
／(株)メディカル・コンシェルジュ／戸田中央総合病院、埼玉成恵会病院／埼玉医科大学病院／獨協医科
大学病院／国際医療福祉大学病院／徳丸リハビリテーション病院／横浜鶴見リハビリテーション病院／
吉沢病院／大宮共立病院／白岡中央総合病院／熊本中央病院／イムス富士見総合病院／エームサービス
(株)／(株)グリーンハウス／(株)ベネミール／(株)アスモフードサービス／ウェルシア薬局(株)／(株)セキ薬品／ア
ボクリート(株)／コスモプラス(株)／カメイ(株)／杏林堂薬局／物語コーポレーション／(株)ファイブグループ
／(株)100percent／(株)メディロム・ヒューマン・リソース／野木町役場

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
経済学部	292 人 (100%)	247 人 (84.6%)	13 人 (4.5%)	32 人 (10.9%)	0 人 (0%)
現代政策学部	212 人 (100%)	174 人 (82.1%)	19 人 (8.9%)	19 人 (8.9%)	0 人 (0%)
経営学部	485 人 (100%)	405 人 (83.5%)	49 人 (10.1%)	31 人 (6.3%)	0 人 (0%)
理学部	233 人 (100%)	178 人 (76.4%)	16 人 (6.9%)	39 人 (16.7%)	0 人 (0%)
薬学部（4 年制）	114 人 (100%)	72 人 (63.2%)	26 人 (22.8%)	16 人 (14.0%)	0 人 (0%)
薬学部（6 年制） ※2019 年度入学	199 人 (100%)	98 人 (49.2%)	77 人 (68.7%)	52 人 (26.1%)	0 人 (0%)
合計	1535 人 (100%)	1174 人 (76.4%)	200 人 (13.0%)	189 人 (12.3%)	0 人 (0%)
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要） シラバスにおいて、科目担当教員が授業の目的・目標、学修成果、到達目標、授業毎に講義の内容等を公表している。 さらに、授業の方法や成績評価方法、オフィスアワーの時間帯、居室等も記載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要） 年度末に開催される各学部の卒業判定教授会において、最終学年（4 年生（薬学科は 6 年生））の成績評価表を基に、それぞれの学部にて定められた卒業要件の科目の成績が適切に評価されているかの確認をしたうえで、卒業の可否を決定する。〈各学部において定められた分野の科目の評価を確認〉 なお、学生に対する卒業可否についての発表は「卒業発表日」（年間行事予定表に掲載）に行う。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な 単位数	G P A 制度の採用 （任意記載事項）	履修単位の登録上限 （任意記載事項）
経済学部	経済学科	124 単位	㊥・無	半期 22 単位
現代政策学部	社会経済 システム学科	124 単位	㊥・無	半期 22 単位
経営学部	マネジメント 総合学科	124 単位	㊥・無	半期 22 単位
理学部	情報数理学科	124 単位	㊥・無	半期 23 単位
	数学科	124 単位	㊥・無	半期 23 単位

	化学・生命科学科	124 単位	㊥・無	半期 22 単位
薬学部	薬学科	186 単位	㊥・無	1. 3 年次半期 24 単位 2. 4～6 年次半期 22 単位
	薬科学科	124 単位	㊥・無	半期 22 単位
	医療栄養学科	130 単位	㊥・無	1. 3～4 年次半期 24 単位 2 年次半期 26 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公表方法：ホームページ内で公表している
校舎配置図 <https://www.josai.ac.jp/about/campus/index.html>
ガイドブック
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7516400-0-27%20&FL=0

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
経済学部	経済学科	750,000 円	220,000 円	284,000 円 (2020 年度生以前 184,000 円) 120,000 円	施設設備費 休学中の在籍料
現代政策学部	社会経済システム学科	(2021～2024 年度生 700,000 円・2020 年度生以前 670,000 円)			
経営学部	マネジメント総合学科				
理学部	情報数理学科	930,000 円	220,000 円	284,000 円 120,000 円	施設設備費 休学中の在籍料
	数学科	930,000 円 (2021～2024 年度生 880,000 円・2020 年度生以前 850,000 円)	220,000 円	284,000 円 (2020 年度生以前 184,000 円) 120,000 円	施設設備費 休学中の在籍料
	化学・生命科学学科	980,000 円 (2024 年度生以前 963,000 円)	250,000 円	436,000 円 (2021～2024 年度生 402,000 円・2020 年度生以前 302,000 円) 120,000 円	施設設備費 休学中の在籍料
薬学部	薬学科	1,460,000 円	300,000 円	511,000 円 (2 年目以降は 611,000 円) 120,000 円	施設設備費 休学中の在籍料
	薬科学科	1,260,000 円	300,000 円	486,000 円 120,000 円	施設設備費 休学中の在籍料
	医療栄養学科	1,380,000 円	300,000 円	306,000 円 (2 年目以降は 486,000 円) 120,000 円	施設設備費 休学中の在籍料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ①学内奨学金として、入学成績上位者に対する授業料減免制度、学業成績・人物優秀者に対する授業料減免制度、本学独自制度による海外留学に伴う奨励制度、海外からの留学生に対する授業料減免制度、学費支弁者の死亡による授業料・施設整備費の全額補助制度などがあります。 ②学外奨学金として、日本学生支援機構、地方公共団体、民間団体の奨学金を活用し支援を行っている。 ③障がい学生には、学生サポート、学内のバリアフリー化、支援申請に基づく支援等、可能な限りの支援を行っている。 ④学部学生には、選考により、教育的配慮の下に学内業務に従事させ、経済的援助を行い、修学の奨励を図っている。(ワークスタディ・プログラム制度) ⑤図書館においては、論文やレポートの書き方のアドバイス、文献の探し方やパソコンの使い方を教える、学生アドバイザーを配置し学習支援にあたっている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、キャリアデザインポリシーのもと、就職支援のためにキャリア支援委員会を組織しています。全学的事務組織としてのキャリアサポートセンターと連携しながら、進路・就職支援活動を進めています。キャリア支援委員は各学部を担当教員がおり、教授会等で就職状況を報告し、ゼミナール、研究室担当教員と連携を取りながら、個々の学生の進路決定活動を支援しています。

さらに、本学ホームページ (<http://www.josai.ac.jp/career/index.html>) を利用して就職活動関連情報を提供し、学生個人を支援するアプリ「城西大学 キャリタス UC」でも提供しています。

上記の環境をもとに、学生一人ひとりが納得のいく進路決定ができるよう、様々なサポートをします。具体的な内容は、きめ細かな個別指導、先を見据えたキャリア教育、各種ガイダンスの開催、企業の採用活動状況を鑑みた時期での情報提供の4点にあります。

①全学共通基盤科目の実施

本学は、キャリア教育の一環として、文系3学部、理系2学部という様々な目的をもった学生同士が触れ合うよう、学科の枠を越えた環境でフルアクティブラーニングができる科目を開講しました。全23クラス一斉に開講しています。その他、各学科の特色をもとにプログラムされたカリキュラムを構成しています。

②きめ細かな個別指導

各学年と個人の考えや状態に合わせた助言をキャリアアドバイザー(国家資格キャリアコンサルタント資格保有職員)が実施します。その体制は、各学部担当を設け、全学生の把握できるようにしています。主な助言は、進路・職業の選択の相談からエントリーシート・履歴書の書き方・添削、模擬面接等です。個人相談は、状況に応じて、「対面もしくはオンラインの選択式」を採用しており、自宅が遠方である学生でも利用しやすい環境を整備しています。

③先を見据えた各種ガイダンスの開催

学部学科ごとに適切なタイミングに複数回、全学生を対象にしたガイダンス実施の他、大きく分けて低学年向け(学部1年生～2年生)、就職活動の準備学年向け(学部3年生、大学院1年生～3年生)、就職活動生向け(学部4年生、大学院2年生～4年生)と3つに分かれます。低学年向けでは、課題解決型の講座、職業適性検査、SPI模試などで就職意識の醸成を図る計画、就職活動の準備学年向けでは、履歴書・エントリーシートの作成方法や、自己分析、企業研究の仕方や必要な情報提供など実践的な内容で開催します。就職活動生向けでは、企業研究会を時期に応じて2回の開催、求人紹介会をハローワークと連携し開催をしています。

今年度より全学科に向けオリエンテーション期間での実施をスタートし、5学科に約50講座の実施をしました。

④企業の採用活動状況を鑑みた時期での情報提供

「城西大学 キャリタス UC」を活用して、最新の求人・インターンシップ・対策講座・各種ガイダンス情報の提供と申込受付、相談ができる時間を公開し提供を行っています。

■資格支援

本学キャリアサポートセンター内にJUキャリアラウンジという資格取得や公務員対策講座を実施する専門部署を組織しています。今年度開講予定の講座は以下の通りです。

詳しくは以下HPをご覧ください。

<https://josai-shikaku.jp/>

- ・公務員講座
 - 公務員入門 (1年生対象)
 - 公務員 (2年生対象)
 - 公務員 (民間併願)
 - 公務員 (警察・消防)
 - 公務員 (教養)
 - 公務員 (教養・専門)
- ・資格対策講座
 - 日商簿記3級・2級
 - FP3級・2級
 - 販売士3級・2級
 - 秘書2級・準1級
 - TOEIC®L&R (入門)

TOEIC®L&R (500 点) Microsoft Office Specialist ビジネス統計スペシャリスト (Excel®分析ベーシック) IT パスポート 基本情報技術者 Illustrator®クリエイター認定試験対策 色彩検定 3 級 国内旅行業管理者 宅地建物取引士 登録販売者 SPI 対策 ・教員免許状 中学校、高等学校教諭第 1 種免許状 (取得できる種別は学科で異なる)
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) ①保健センターでは看護師が常駐して、定期健康診断の実施、突発的な怪我や病気等の対応を行っている。 (ア) 授業中に気分が悪くなったとき (イ) 課外活動中の怪我をしたとき (ウ) 持病をもっている学生の健康管理 (エ) 週一回内科医による健康相談が可能 (オ) 神経科・心療内科医師による悩みごと相談が可能 ②学生相談室は、公認心理師、臨床心理士が学生の悩みごとや心配ごとなどに対応をしている。 (ア) 学生支援が必要な学生に対し、担当学部、学科の教職員と調整を行い授業が受けられるよう支援 (イ) 課外活動、学業のこと、友人関係のことなどの悩みごとなど対応

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ https://www.josai.ac.jp/about/information/publication/ 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F111310102094
学校名 (〇〇大学 等)	城西大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人城西大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		657人（24）人	641人（33）人	698人（43）人
内 訳	第Ⅰ区分	344人	319人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅱ区分	152人	164人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅲ区分	116人	103人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	21人	22人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	24人	33人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（0）人
合計（年間）				698人（43）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	30人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	30人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	-	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	-
訓告	0人
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	27人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	87人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	人	人
計	87人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。